

薬剤科 DI ニュース

薬の疑問：薬を「食直前・食直後」「起床時」「食後」に飲む理由を教えてください

薬の中には食事のタイミングに合わせて飲まないと、期待する薬の効果が得られなかったり、副作用が出るなどの問題が起こることがあります。今回はその一部を紹介します。

食直前	ベイスン錠 0.2 グルコバイ錠 100mg	ベイスンやグルコバイは小腸からの糖質の吸収を遅らせ、食後の急激な血糖上昇を抑える薬です。食後服用では薬の効果は発揮されませんので、必ず食直前に服用しましょう。
	ファスティック錠 30	ファスティックは「食直前」に服用することで一時的にインスリン分泌を促進させ、食後の血糖値上昇だけを選択的に抑える薬です。服用後の効果発揮は極めて早く、食直前に服用しないと、低血糖が起こりやすくなりますので、必ず食前 10 分以内に服用しましょう。
食直後 食後	脂溶性の高い薬剤 アレビアチン散 10% イトリゾールカプセル 50 エバテール S600 グラケーカプセル 15mg など	脂溶性の高い薬を「空腹時」に服用した場合、吸収が悪く、期待する効果が十分得られないことがあります。脂溶性の高い薬は食事に合わせた食後服用が大切です。もし、食事ができない場合には、牛乳を飲んだ後に薬を服用するとよいでしょう。
起床時	ボナロン錠 5mg	ボナロンは水以外の飲料（Ca、Mg 等の含量の高いミネラルウォーターを含む）や食物と同時に服用すると吸収が低下するため、起床後すぐの朝食前に服用し、かつ服用後 30 分は水以外の飲料を避けることが大切です。
食後	解熱鎮痛消炎薬	解熱鎮痛消炎薬は副作用として胃腸障害が認められる代表的な薬です。空腹時の服用は、食後服用に比べて胃腸障害を引き起こしやすいので、食後すぐに服用しましょう。もし、食事ができない場合には、牛乳を飲んだ後に薬を飲むようにするとよいでしょう。

(薬剤部 吉村)